

# 2023年度第3回ルール委員会議事録

開催日時:2024年3月16日(土)13:00~17:00、17日(日)9:00~12:00

開催場所:愛媛県松山市 松山市民会館&オンライン(ZOOM)

参加者:(現地)増田委員長、今津副委員長、加藤副委員長、藤井副委員長、古川委員、岡部委員、木内委員、日下部委員、吉本委員、高野委員、三輪委員、鳥取委員、黒木委員、松原委員、稲葉委員、田中委員、柴沼委員、山口委員、中野委員、富田委員、石川(彰)委員、西田顧問委員  
内海委員  
(オンライン) 林委員、渡辺(勝)委員、石川(雅)委員、岡嶋委員、宮崎委員、浅田委員、渡邊(範)委員、村松顧問委員

※順不同計 29名

## 0. 増田委員長挨拶

開会にあたって、増田委員長より挨拶。

今期で委員長を退任し、次期委員長を藤井副委員長としたい。

長期間にわたって支えていただいた各委員に深く感謝する。

## 1. <審議>NJNU 規程の改定について 藤井副委員長

以下2点について提案され、審議の結果、提案どおり承認された。

- (1) 規程第5条(新規認定資格要件)に規定するA級ジャッジおよびナショナル・アンパイアの審判実務経験について、「ジャッジ/アンパイア経験を適切に有すること」を、A級ジャッジは「ジャッジ経験を適切に有すること」に、ナショナル・アンパイアは「アンパイア経験を適切に有すること」に改める。
- (2) 規程第11条(資格更新要件)に規定するナショナル・アンパイアの審判実務経験について、「アンパイア等経験を適切に有すること」を「アンパイア経験を適切に有すること」に改める。「アンパイア等」の「等」が何を示すか分からないため

## 2. <協議>2025RRS 改定に向けて 藤井副委員長

藤井副委員長より、2025RRS 改定についての予定や役割分担について説明がなされた。

加藤副委員長より、ルールブックについて、次の説明がなされた。

- ・製本版・アプリ共に現行の価格を維持
- ・加盟団体等を通して一括販売を実施(割引価格設定あり)
- ・加盟団体の在庫リスクを考慮し、一定期間(2025/3/末まで)はルール委員会からの直販は自粛する。

(以下、主な意見)

- ・ジャッジ/アンパイアは、ボランティアでセーリング・スポーツに貢献している人たちであり、資格の更新講習を有料とするのはいかがなものか?(無料化すべきではないか)
- ・ルールブックの販売で利益が出るのはいかがなものか?(無料化すべきではないか)

## 3. <協議>次期ルール委員会の体制について 藤井副委員長

藤井副委員長より、次期ルール委員会の体制について、改めて就任依頼をするので、快く引き受けていただきたいと

(以下、主な意見)

- ・もっと女性委員の増加を図ってもらいたい。女性のA級ジャッジは9名しかいないが、そもそもルール委員をジャッジ有資格者に限る必要は無いので、女性の増員に力

を入れてもらいたい。

#### 4. <報告>2024 年度事業・予算について 加藤副委員長

2024 年度の事業計画・予算について、加藤副委員長より説明がなされた。

(質疑の概要)

- ・ World Sailing 年次総会に出席した委員の旅費がルール委員会の予算に計上しているのはおかしいのではないか。本来、国際委員会で計上すべき費用ではないか。
- 以前は、国際委員会の予算に計上されていたものが、JSAF 執行部からの指示により、ルール委員会予算に計上することになったもの。

#### 5. パネル・チェアマン用チェックリストの提案 田中委員

World Sailing のホームページには、パネル・チェアマン用チェックリストが公開されている。国体のプロテスト委員会などでは日本語訳されたものが使用されているが、JSAF のホームページにも公開することにより、広くパネルチェアを務めるジャッジの役に立つのではないかと、この提案。

(議論の概要)

- ・ World Sailing が公開しているものをそのまま日本語訳するのではなく、ジャッジ小委員会にて議論して国内大会でより使いやすくアレンジして公開するのが良い。
- ・ ヒアリング・チェックリスト (いわゆる CAS チェックリスト) も公開されていないので、併せて公開してもらいたい。
- ・ 公開に際しては、「使い方」(各大会にあわせて編集して使用する) も明記することが必要。

#### 6. ケース研究など

##### 6.1. ラジオで中止 増田委員長

(ケースの概要)

ある大会で、フィニッシュラインにて、フィニッシュ・マークのコミッティボートがアンカーがきかずに流れた。

当該コミッティボートに N 旗を積んでいなかったことなどにより、ラジオで「このレースを中止した」と通知した。

正しくフィニッシュした (と思っている) 複数の艇が救済要求した。

(議論の概要)

N 旗の掲揚をしていないことや音響を発しなかったことは、RC の不手際だが、そのことで不利益を被った艇は無く、その可能性も無かったので、当該レースは中止されたと考えることができるのではないかと。

また、N 旗が無いからといってレースが中止できないということになると、安全上大きな問題が生じることになるのではないかと。

なお、当該大会の判決は、「N 旗の掲揚及び音響信号を発していないのでレースは中止されていない。中止されていないのに成績を出していないのは不手際である」とし、最終マークの回航順位を与えることにより救済を与えている。

##### 6.2. カイトの絡まりカウント 増田委員長

(ケースの概要)

レース中、カイト B が規則違反したことによりカイト A と絡まり、カイト A が B を抗議 & 救済要求をした。

審問前に B が自分の違反を認めてリタイアを申し出た。

カイト A は抗議の取り下げを求めた。(救済要求の取り下げは求めている)

抗議の取り下げを認めてよいか？

(議論の概要)

付則F 5-6 4にて、「規則に違反し、その結果として、大会中に2回目もしくはそれ以上の絡まりを引き起こした場合には、～除外できない失格」とされているので、取り下げを認めずに審問を行い、「絡まり」(の回数)を認定しておく必要がある、ということを確認した。

以前の規則では「絡まり」が救済要求の根拠とされていたが、現在は救済要求の根拠とされていない。

以前の規則では、相手がリタイアしていても救済要求が提出されることにより、審問が行われて絡まりの回数が把握されやすかった。

しかし、現在の規則では、絡まりは救済要求の根拠となっていないので、相手がリタイアした場合には審問要求書が提出される可能性は低く、絡まりの回数を把握しにくい規則の構造になってしまっているのではないか。

### 6.3.CoIのコントロールについて 増田委員長

(ケースの概要)

かごしま特別国体にて、プロテスト委員全員のCoIの可能性について申告してもらい、その対応方針を記載した一覧表を公開(掲示)した。

加盟団体の理事については、報酬なし、選挙なし、代表選手の選考不関与であれば顕著なCoIはない、とした。

一方で、大学のOB会費を払っており、そのOB会が経済的に支援している大学ヨット部の現役選手が出場している場合には、「CoIがある」とした。

(議論の概要)

CoIの対応方針を公開することは、公平な運営をしていることを示すことになるので、良いことだと思う。

OB会費の支払い=CoIがある、というのは厳しすぎるのではないか。

(World Sailingが公開している基準では、「CoIがある」、となる。)

全ての大会が同一の基準で運用するのではなく、大会の性質などに併せて考える必要がある。

## 7. 事務局からの報告

### 7.1.<報告>ジャッジ・アンパイア資格状況など 加藤事務局長

書面にてジャッジ・アンパイアの資格状況が報告された。

NJA: 202名(男性: 193名、女性: 9名)、NJB: 708名(男性: 582名、女性: 126名)、

NU: 26名(男性: 24名、女性2名)

その他に、年齢別/都道府県別の取得状況の一覧が報告された。

## 8.<報告>小委員会活動報告・計画

### 8.1.ジャッジ小委員会 古川小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・ NJA 新規認定講習会を3/23-24 夢の島マリーナにて開催予定
- ・ NJB 新規認定試験について更新済。WEB試験も更新完了。
- ・ ジャッジクリニック、NJB向けステップアップセミナーを開催している。今年はオルグやオンラインストレージの活用などを実施したが、通信トラブル等無く好評。
- ・ Q&A サービスは対応済み。
- ・ 「クラス別最も一般的な規則42違反」については、OPと470を最新版にアップ

デート中。

- ・アプリ版のケースブックの誤訳は修正中。
- ・ケースブック補遺版（Case149、150 追加）を翻訳中。
- ・ジャッジマニュアルは WS から公表された N 章について、翻訳し HP へアップ済

#### 8.1.アンパイア小委員会 今津小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・2024 年のアンパイア制レースイベントの実施予定が報告された。例年実施されているものが、いずれも予定どおり実施される見込み。
- ・チームレース・クリニックを広島にて開催予定。OP：6/29-30、スナイプ 7/20-21
- ・10 年ぶりとなる日本における IU セミナーを、3/6-9 に三河みとマリーナにて実施した。海外から 8 名、日本から 3 名が参加。聴講生 4 名。海上アセスメントの合格者は無かった。
- ・2024 年度 NU 認定講習会、試験について、従来どおり、年末の伊藤園クリスマスマッチを実技アセスメントの機会として実施する予定だが、チームレース・クリニック及び全日本 OP と組み合わせることも新たに検討している。これまではアセスメントの場はマッチレースを前提としていたが、チームレース（やフリートレース）にてアセスメントを実施しても良いのではないかと考えている。
- ・NU 候補者は女性 3 名を含めて 6 名。
- ・今後の課題として、マッチレースマニュアルが未着手となっているが、早急に着手したい。また、世界的にはシングル・アンパイアリング（一人乗りのアンパイア・ボート）アが増加してきており、国内でも検討したい。
- ・チームレースの世界選手権が復活するので、国内でも盛り上げていきたい。

#### 8.1.IJU 育成小委員会 増田小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・全ての日本人 IJU セミナ/テスト合格有効期限が切れたが、新たに 1 名 IJ セミナ/テストに合格した。
- ・国内で実施された IU セミナに海外からも申し込みが多くあり、国際的な貢献もできた。
- ・海外で実施された IJ セミナへの渡航費補助を実施し、その中から合格者を輩出することができた。
- ・IJU 申請者向け手引について、2024 年 2 月公開の RQC を反映して、HP で公開済。RQC は毎年 2 月に更新版が公開されるので、手引きも毎年更新する必要がある。
- ・IJU 推薦基準の改訂について、ジャッジのディンギーの国内大会については具体的に検討したが、アンパイア・キールボートについては未着手。
- ・IJU 候補者の発掘支援について、海外の大会を随時紹介したが、実際の参加は無かった。
- ・国際大会への日本人 IJ/IU 候補者の渡航支援について、予算確保はしていたが該当者は無かった。
- ・国内の国際大会への海外 IJ 候補者の渡航支援について、アジアからの IJ 候補者への支援を実施しており、国際的な貢献ができた。
- ・国内の国際大会への日本人 IJ 候補者の派遣については、EOW2023 に 3 名を推薦。（推薦した NJ2 名の Col が問題となった）第 1 回アジア・オセアニア 420 選手権には日本人 IJ を 1 名推薦。（日本人 NJ 枠無し）EOW2024 への参加者を公募、追加公募を実施した。

（質疑・要望の概要）

- ・国内でのIJセミナー実施を検討してもらいたい。

### 8.1.外洋規則小委員会 日下部小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・コロナ禍も落ち着いたので、外洋合同会議をオンライン開催から対面開催へ戻す活動を実施。
- ・外洋規則 2009 の改廃案作成、DP 基準に関する課題提起、対応方針の検討を実施した。
- ・ローカルクラブレースへの出向き支援については、6月に外洋東海鬼崎ヨットクラブにて実施予定。
- ・外洋ダブルス日本選手権 2024 (和歌山～蒲郡 2024.4.29～5.5) の実施に協力している。
- ・講習会 (レース主催者含む) については、未達であった。
- ・外洋艇レースの PC のオンライン化の課題検討については、情報収集を実施したがまだ報告できる程度には進捗していない。
- ・外洋合同委員会について、他委員会の外洋系小委員会などと連携し、2月に福岡で実施した。参加者 41 名 (対面 30 名、オンライン 11 名)
- ・ルール委員会 (外洋規則小委員会) からは「外洋規則 2009 の役割について」「裁量ペナルティの適用上の課題について」報告した。

(質疑・要望の概要)

- ・外洋規則 2009 について、「規則」ではなく「ガイド」とした方が使いやすいのではないかな？  
→外洋規則 2009 の策定当時にも「ガイド」とすることも議論されたが、「ガイド」では浸透しないのではないかという意見があり、推奨される事項のセットを「規則」としたもの。  
時間が経過し運用される中で、「ガイド」の方が使いやすいのではないかとの意見が出てきているのではないかな。

### 8.1.規程管理小委員会 藤井小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・RRS 付則、試行規則および World Sailing 規程の翻訳については、継続して実施している。(一部、ニーズを見定めており保留しているものもある)
- ・RRS の緊急改定および正誤対応について、正誤表を発行済。(アプリも対応済) RRS50.1(c) (クイック・リリース・ハーネス) について、2023 年の WS 年次総会にてハーネスが ISO に適合していることという要件を削除する Submission が承認されており、次期 RRS では ISO 適合要件が無くなる可能性がある。
- ・2023 年 WS 年次総会までの Submission、Yellow Papers は、WS ホームページにて公開されているので、各自で確認してもらいたい。
- ・次期 RRS 改定の翻訳に向けた事前準備 (日本語訳の改正提案) を積極的にしてもらいたい。
- ・WS の新規/更新ドキュメント、JSAF 総務委員会、JSAF 理事会及び評議員会の議事録のチェックを継続して実施している。
- ・JSAF 利益相反規程改定に伴うレースオフィシャルズの取扱いについては、ルール委員会だけでなく関係委員会 (RM、ODC など) と連携する必要がある。
- ・JSAF 規程について「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へ名称変更に伴う改定について、JSAF 理事会にて承認され、HP にも公開した。
- ・付則 JA について、プロテスト委員会の構成 (JA2) の規定が意図したとおり読めな

い場合があると思われるので、改良について小委員会内で検討中。

- ・NJNU 規程について、審判実務経験など、前回 RRC で審議・承認されたものが 2 月の理事会で協議され、今後、5 月の理事会で審議される予定。

(質疑・要望の概要)

- ・NJNU 規程第 5 条の NJB の審判実務経験が「ジャッジ等経験を適切に有すること」となっているが、細則と同じく「ジャッジまたはジャッジ補助」とした方が分かりやすいのではないか？  
→5 月の理事会での審議時に提案することを検討する。
- ・JSAF 利益相反規程の中のレース・オフィシャルズについては、課題が多い(大きい)ため、総務委員会にて再検討中。総務委員会では、現在、理事などの Col について検討・実施しているところだが、レース・オフィシャルズについてはこれから着手する予定。(JSAF 主催大会でレース・オフィシャルズから Col の申告を受けたときに対応する体制を JSAF 内に整備する必要あり)
- ・Col について総務委員会などでは「利益相反」としているが、RRS の日本語訳は長年「利害関係」としている。これまでルール委員会でも検討したことがあるが、原文が変更されていない場合は、よほどの理由が無ければ変更しないとの方針から変更せずにきた。JSAF として「利益相反」という日本語を採用しており、日本語訳を変更する契機としても良いのではないか。  
→訳語を「利益相反」に変更すること出席者は同意した。今後、RRC にて正式に協議・審議のうえ決定するものであるが、「利益相反」に変更する方向で検討を進める。意見があればメール等にて提案してもらいたい。

## 8.1.普及小委員会 加藤小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・ルール検定制度について、レベルは 1～6 段階程度、試験方法はオンライン、受験料は赤字にならない程度に有料とする方向で検討している。
- ・ルール講習会をオンラインと対面で実施。オンライン講習会については、300 人弱の受講者で想定よりも少なかった。受講者数減の要因としては、受講料の有料化や周知不足が主なものと思われる。
- ・対面講習会も実施したが、周知期間／労力不足から開催 6 か所受講者 300 人程度にとどまった。

(質疑・要望の概要)

- ・ルール検定制度についてニーズ・マーケティングについてはどのように考えているのか？  
→NJB 認定試験に若年者が多いことや、コロナ禍に実施したルールクイズに大きな反響があったことなどからニーズがあると考えて、このルール検定について検討を始めたもの。
- ・ルール検定制度について、最初からすべてを有料化するのは、ハードルになる可能性がある。この検定制度の必要性を十分整理して最初は無料(赤字)とすることも検討が必要ではないか。
- ・ルール検定制度について、対象は JSAF 会員のみかどうか検討が必要。(JSAF 会員のみを対象とすべきではないか)
- ・ルール講習会について、対面講習会は現地担当者の負担が大きいので、各地の担当者が労力の少ない「オンライン」を選択する傾向があるのだろう。
- ・特にウィンドサーフィンは周知期間が短かったのが要因として大きかったと思われる。(早めのアナウンスが必要)

#### 8.1.NJNU 実績管理小委員会 加藤 WG 長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

- ・ JSAF 企画経営室にて情報 PF の開発が行われており、その中で NJNU 実績管理も組み込まれて進んでいく予定。

(質疑・要望の概要)

- ・ 自由記述項目は、確認に手数が掛かることから慎重な対応・検討が必要。(WS の IJ レポートでは自由記述項目の修正対応に多大な労力が掛かっている。

最後に今津副委員長の挨拶で閉会した。

以上